

令和6年度第1回帯広市環境審議会 議事録（概要）

○日時：令和6年7月10日（水）10:00～11:55

○場所：帯広市役所 10階 第5A会議室

○出席者：

- ・委員：有働委員、小川委員、河村委員、鈴木委員、永田委員、宗岡委員、谷地委員、吉田委員（計8名）
- ・事務局：高橋都市環境部参事、岡田環境室長、西島環境課長、泉係長、関井係長、石川主任、東主任、葛西主任補
- ・他課説明員：櫻田環境室清掃担当次長（清掃事業課）
- ・傍聴者等：報道関係者1名

○配付資料：令和5年度版帯広市環境白書

○次第：

1 開 会

2 議 事

（1）報告事項

- ・帯広市環境白書令和5年度版について

（2）その他

- ・「日高山脈襟裳十勝国立公園」の指定について

3 閉 会

議事（１） 報告事項—令和５年度版帯広市環境白書について

令和５年度版帯広市環境白書について、事務局より説明。

第１章 帯広市の環境行政

委員からの意見・質疑

【委員】５ページの「循環型社会の形成【ごみを減らすまち】」の段、「市民１人１日あたりのゴミの排出量」の単位について、「g/人・日」となっていますが、「g/人」に「日」を掛けたものと勘違いする可能性があるため、表記を改めてください。

【委員】５ページの河川水質の環境基準の達成率について、目標が１００％に対して実績値が８３％となっていますが、２７ページの札内川合流前地点が例年 BOD の値が高いです。文章では原因が生活排水となっていますが、当該採水地点周辺の下水終末処理場放流水の基準達成率はどうなっているのでしょうか。

【事務局】帯広川札内川合流前地点の BOD が高くなる要因としては、当該採水地点の上流にある帯広川終末下水処理場で微生物処理された排水中の硝化細菌が一つの要因として考えられますが、排水中 BOD について帯広川終末下水処理場を所管する下水道課に確認したところ、年間を通して下水道終末処理場の排水基準である 20mg/L を超えるものではありません。

【委員】BOD の測定に係る採水・測定結果の算出方法について教えていただきたい。

【事務局】令和４年度につきましては、帯広川の西８条橋および札内川合流前では北海道と共同で５月、６月、７月、８月、１０月、１２月、１月、２月の計８回採水し調査を行っています。その中で、BOD については８回中３番目に高い値を採用しています。また、それ以外の地点では帯広市単独で６月、８月、１０月、１２月、２月の計５回採水しており、そのうち２番目に高い値を採用しています。

【委員】帯広川と札内川が合流する地点は流速が遅く水が滞留するため藻などが生えやすく、相対的に BOD が高くなりやすいので、札内川合流前地点は正確な評価にはなりにくいように思います。帯広川であれば、もう少し上流の帯広柏葉高校や帯広神社のあたりに採水地点を追加して、市街地の影響を見た方がいいかもしれません。

【委員】もう１ヶ所測定地点を増やした方がよいという話が出ましたが、これまで同じ地点で測定してきている以上、途中で測定地点を追加してしまうと、この環境指標項目（５ページ）の達成状況を見るときにずれが生じてしまうと思うので、帯広市はできないと回答するべきではと個人的に思います。

※事務局より補足

定点として採水地点を新たに追加するのは難しいところではありますが、周辺の採水地点で BOD が高い値となった場合には、別地点においても予算の範囲内で臨時で採水し調査を行うことを想定しています。

第2章 環境の状況と施策の実施状況

第1節 地球環境の保全 及び 第2節 自然共生社会の形成

委員からの意見・質疑

【委員】11ページを見ると、平成30年度から令和4年度まで太陽光発電システムの補助件数がいずれも100件に届いていません。CO2削減という観点では、家庭用、業務用も含めて太陽光発電システムの補助件数が年々右肩上がりに伸びていくべきだと思います。既築住宅に太陽光発電システムを普及拡大させるビジョンなど、今後の再エネの補助金については今までにない工夫をしていく必要があると思います。せめて補助枠分はクリアするということを目指して考えた方がいいと思います。

【事務局】いただいたご意見を踏まえ、今後も普及拡大に向け取り組んでいきます。なお、令和5年度は太陽光発電システムの補助件数が、補助枠には達していませんが、120件と前年度に比べ増加しています。

【委員】10ページのノーカーデーについては市役所の職員がメインで活動されていると思いますが、今は学校もバスの路線が減ってしまい通学しにくいなどの影響があります。公共交通に乗って支えることが必要と思いますが、市では何かアイデアをお持ちでしょうか。

【事務局】白書に掲載しているのは帯広市内におけるノーカーデーの結果ですが、ほかに十勝管内の自治体19市町村が参加するノーカーデーの取り組みもあり、今年度からは十勝総合振興局もその枠組みの中に参入しています。また、十勝総合振興局には企業向けに帯広市のノーカーデーの取り組みにご協力いただけるよう広報もしていたところではあります。

公共交通につきましては、路線再編等についての協議会を市で立ち上げ検討を進めているところです。このような協議会等を通じ、市民の皆様に使っていただけるようなバス路線にしていきたいと考えています。

【委員】私の子供は4月から高校生になったのですが、自宅から高校がとても遠く、バスも不便なので自家用車で送迎をすることになりました。同じように自家用車で送迎している家庭も多く、子供を車から降ろすにも相当並ばないといけません。スクールバスのような交通手段も増えてくれればと思います。

【委員】ノーカーデーのPRはフードバレーとかちマラソンやサイクリングイベントのような人が多く集まる場で行うのが大事だと思います。また、とかちマルシェなどのたくさん人が集まるイベントで、たとえばエコクッキングのPRをするブースを出展するなどの取り組みも有効だと思います。そのようなPRの方法を検討されてはいかがでしょうかと思います。

【委員】北海道の「住まいのゼロカーボン化推進事業」の補助金により帯広市では10万円以上の改修工事に対して5万円の助成をされていますが、鹿追町では20万円以上の改修工事に対して対象経費の3分の1以内で最大50万円を補助しています。改修で省エネ化を図るとなると、30万円から50万円程度の補助がないと難しいと

思います。自治体向けの他の補助金も活用しながら帯広市の補助の金額を上げる工夫が必要だと思います。

【委員】11 ページのウの中、廃てんぷら油の回収ボックスについて、設置場所は年々増えているのでしょうか。

また、てんぷら油は使い切るのが環境に良いと思っているのですが、使い切りについては考慮されているのでしょうか。

【事務局】廃てんぷら油回収ボックスの設置場所については、現状スーパーやガソリンスタンドからの要望などにより設置箇所が減っています。直近ではイトーヨーカドーの閉店により店舗内に設置していた回収ボックスについて令和6年6月15日をもって撤去しています。

本事業は、廃てんぷら油をBDFに転換することで廃棄物の減量を図ることを目的としており、廃てんぷら油を廃棄する場合は回収にご協力いただくことを呼びかけています。

第2章 環境の状況と施策の実施状況

第3節 生活環境の保全

委員からの意見・質疑

【委員】24 ページのグラフ全般、27 ページのグラフ全般、28 ページのグラフ全般、縦軸が何であるかが書かれていません。何の指標かということを書いて、括弧書き、あるいはコンマを打ってから単位を書くというのが学術的な約束になっておりますのでそのような書き方に修正していただきたい。

【委員】たまに夜間に爆音を鳴らして車が走行しており、非常にうるさいことがあります。このような車両について市では何か対処しているのでしょうか。

【事務局】車の走行音については、音源が移動しているということもあり、市としては指導等の対応は難しいところです。そのような苦情があった際はまず警察に相談することを提案しております。車両に係る他の苦情としては、駐車場などでの長時間のアイドリングによるエンジン騒音や排気ガスの臭気に関するものがあります。不用なアイドリングの禁止については帯広市公害防止条例で謳われておりますので、適宜原因がわかれば、原因者に対して指導等の対応をしています。

【委員】33 ページの自動車騒音調査の測定地点は、河川水質調査と同じように何か決まりに従って選定しているのでしょうか。また、頻度など、どのような測定方法をとっているのでしょうか。

【事務局】測定地点については、どの地点で測定しても同程度の騒音値となるような区間を設定し、各区間の1箇所に機器を設置し測定を行っています。測定にあたっては沿道の施設や公園の管理者等に依頼して敷地内に機器を置かせていただいています。5年のローテーションの中ですべての区間の測定・評価が完了できるようスケジュールを組んでいます。

測定の頻度については、河川水質測定のように月ごとに測定するわけではなく、連続する5日間、定点で道路上の騒音を測定しています。祭事等、交通量が集中しやすい時期は除外するなど、平均的な騒音値を測定できる期間を設定しています。

第2章 環境の状況と施策の実施状況

第4節 循環型社会の形成 及び 第5節 市民参加と広域連携

委員からの意見・質疑

【委員】44 ページ、道内主要 10 市の一人一日当たりゴミ排出量の表の順位について、排出量というのは多い順番に表記されていると受け止める人が多いと思います。文章を読まずに表を見たときに、そのような理解でいると誤った読み取り方をしてしまうので、「少量順位」と表記してもらおうとわかりやすいと思います。

【委員】49 ページの表、50 ページの表について、数値を見たときに、中央揃えとなっておりわかりにくいです。数値は小数点で揃えていただきたい。

【委員】上勝町（徳島県）では市民がゴミを 20 種類以上に細かく分別し、ほぼすべてをリサイクルしているそうです。分別されたゴミは売ることができますが、不十分な場合は逆に費用がかかるそうです。レトルトの袋を汚れたままごみとして出すなど、分別のやり方によってはリサイクルに不適なものとなりリサイクル率が低下してしまいます。帯広市でも市民一人ひとりが協力してもっと徹底的に分別できれば、お金をかけずにリサイクルでき、リサイクル率も向上すると思います。帯広市として、容器包装リサイクル法にとられない手法を取り入れてほしいです。

【事務局】難しい問題ではありますが、市民の皆様にご協力いただくことでさらにリサイクルできる体制をどのように作っていくか引き続き検討していきたいと思います。

※白書全体について

委員からの意見・質疑

【委員】表やグラフは、「表 1-1」などナンバリングしてもらえると●ページの上から●番目だとか言わずに済むので、検討願います。

【委員】この白書は公的資料なので、みんなが見る資料という観点からは普段見慣れているグラフの見せ方がいいと思います。折れ線グラフや棒グラフのタイトルや単位は元々のエクセルの様式に付いていてもあえて省くとか、折れ線に数字をつけて見やすくしたりするのが良いと思います。タイトルに指標が示されている以上は縦軸に表記しなくても資料を見て理解できると思うので、学術という縛りがない資料であればこのままのグラフで良いのではないかと思います。今後見直すのであれば、縦

軸にもタイトルを入れる方向でもいいと思いますが、縛りがないのであれば見やすさを優先した方が良くと個人的には思います。

【委員】誤っている、あるいは分かりにくいということが指摘されないまま継続している表記は変えていった方が良くと思います。数字だけ並べたような表・グラフでは理解が難しいです。

【委員】一般市民が見たときに読みにくい、理解しにくい表記であれば、学術的ルールにこだわる必要はないと思います。市民の視点も考慮に入れるべきだと思います。

【委員】白書というのは帯広市が出した非常に高度な学術的な資料だと思いますので、単位については付けるべきだと思います。

【委員】この白書に関しては学術に寄り添った形での記述が正しいと思います。基準があるものなので、市民が見るようなチラシやパンフレットのようなものは見やすさを優先していいと思いますが、この白書に関してはルールに従って作っていただきたいと思います。

議事（2） その他－「日高山脈襟裳十勝国立公園」の指定について

日高山脈襟裳十勝国立公園の指定について、事務局より報告。

委員からの意見・質疑

【委員】アポイ岳と豊似湖の間に指定されていない地域がありますが、どういう理由でしょうか。

【事務局】公園区域は国が調整した結果ですが、指定されていない地域は、民有地と一部道有林だったかと思いますが、地権者から同意が得られなかったところだと思います。

【委員】5年に一度エリアを見直すと聞いていますが、十勝側の大樹、広尾、豊頃周辺にある湿原は渡り鳥も多く、国立公園に匹敵するような、ラムサール条約登録できるような価値があるところだと思います。一定の面積がないと国立公園として認められないので、飛び地でもいいので、指定されれば良いと思います。

この自然の豊かさを利用して、自然の大切さを学べるような国立公園になっていけばいいと思います。

【事務局】湿原部分に関しては保護団体の方からもそのような意見があったようですが、国の方で、地形的な成り立ちというところから入れられなかったようです。今回公園区域はかなり広くなりましたが、麓の登山口など、区域に含まれていない部分があることから、今後はその辺りも含めて、5年に1回公園計画の見直しがありますので、区域が広がる可能性はあります。